

# 第29回 原爆ドーム(産興)の巻



※通常は私の体験談かモチーフ紹介から始まる形式をとっていますが、今回は関係者の方の思いを汲んだ文章を書くことが難しいと判断された為、模型のみを極力主観を排して紹介致します。

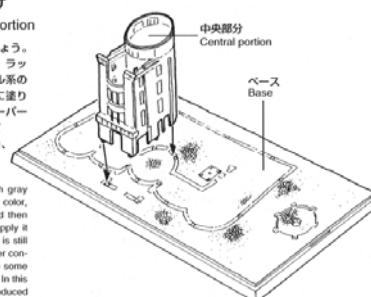
このキットは建築物それも現代の建物を再現した大変珍しいものです。このキットは広島市の原爆資料館でのみ販売されているもので、一般模型店等には流通していません。私は友人Eの広島旅行の際に買ってもらいました。企画・制作をしている産興という会社も模型メーカーではなく、広島市あたりの発注を受けて製造しているのではないかと考えられます。内容はなかなかに意欲的で、らせん階段のパーソ割には唸らせられました。頂上の鉄骨の部品がやや厚く成型されてしまっているのはスケールがスケールだけに致し方ないところでしょう(ちなみに1/250というのは人間の身長がおよそ7mmという世界です)。

## 2. 中央部分の取り付け Attachment of the central portion

ベースは、先に塗装しておきましょう。

茶色っぽいグレーが良いでしょう。ラッカーワーク系の漆料を塗った後、エナメル系の漆料のつや消し黒をうすめて全体に塗ります。半乾きの時、ティッシュペーパーに、エナメルシンナーをふくませてぬきどるごとに黒色が残り、素晴らしい立体感ができます。

Color the base in advance. Brownish gray may be appropriate. To produce such color, apply some lacquer paint at first, and then thin mat black of enamel paint and apply it on the whole base. While the surface is still wet, rub the surface with a tissue paper containing some enamel thinner to make some dent, leaving the enamel color on them. In this way, a stereoscopic effect can be produced on the base.



左はこのキットの組み立て説明図の一部です。海外から訪れる方の購入が少くないでしょう、説明文は英語でも記述されています(ということは、海外では観光土産にプラモデルを購入するという風習があるのかもしれません)。それにしてもこの説明を読むと、ラッカーワーク系による基本塗装の後にエナメル系によるウォッシングという、今日では模型誌でも勧めないような超絶テクニックを要求しています。組み立てには接着剤が必要ですし、一般的日本人がメインゲットとは思いにくいキットです。

## キットデータ

|      |           |
|------|-----------|
| メーカー | 産興        |
| スケール | 1/250     |
| 当時価格 | 1800円(税抜) |